

日本語オノマトペの意味伝達性の相関要因の解明

Identifying factors correlated to communicability of Japanese onomatopoeia

宮本真希¹⁾, 日高昇平¹⁾

MIYAMOTO Maki¹⁾, HIDAKA Shohei¹⁾
jaist1810180_miyamoto@jaist.ac.jp, shhidaka@jaist.ac.jp

1) 北陸先端科学技術大学院大学

1) Japan Advanced Institute of Science and Technology

【キーワード】オノマトペ, 語と参照対象の恣意性, ブーバキキ効果, 意味伝達性

1. 背景

近年, 言葉が通じない人同士によるコミュニケーションの機会が増してきているが, 言語の恣意性による意思疎通の困難さを感じる人も多いのではないだろうか. ここでいう恣意性とは, 語の音声パターンとその音声指す内容の間に関係性が乏しいことをいう. 異なる言語では, 同じ対象を指す音声パターンが異なるという語の参照の恣意性があるため, 同じ言語を共有しない話者間の意思疎通の妨げとなりうる. しかし, 一般に擬音語と擬態語を総称したオノマトペと呼ばれる語彙は, 非恣意的な表現であることが多く, 語の音声パターンからその参照対象を推測できると考えられている. 音声パターンとその参照対象の関係性を人が推測できることは, 「ブーバキキ効果」の実験で示すことができる. ブーバキキ効果とは, 特定の音声パターンに関して, その音声パターンの参照内容の推測にバイアス(選択確率がチャンスレベルを超えて偏りがある)が見られる現象を指す. 言葉が通じない状況でも, 自分の意思を伝える非言語的手段はいくつかあるが, 本研究では, 狭義の言語の一部でありながら, 高い非恣意性を持つオノマトペの意味の伝達特性(意味伝達性)に着目する.

2. 目的

日本語オノマトペ音声刺激としてブーバキキ効果の検証実験を行うことで, 日本語に習熟していない実験参加者がオノマトペ音声の指す対象を正確に推測できる確率を非恣意性あるいは意味伝達性の指標として使えらると思えられる. 本研究では, こうして定義するオノマトペの意味伝達性に関連する要因を, ブーバキキ効果を用いて検討することで, 音声と感覚・知覚の相関構造を明らかにすることを目的とする. オノマトペの非恣意性と相関する要因を調べることで, コミュニケーションの場面においては, 自身の感覚・知覚情報を音声に換えて相手に伝える認知過程の解明を目指す.

3. 方法

Ramachandran & Hubbard(2001)による実験では, 人工的に作成した造語を用いて, その語の音声と音声指す対象を高確率で一致させられることを確かめている. 本研究では, 日常での意思疎通の可能性を背景としているため, 日常で使用されるオノマトペの非恣意性をブーバキキ効果によって検証する. 対象は日本語のオノマトペとするが, これは日本語が理解できない人であっても, 意味伝達性の高いオノマトペであれば, 音声を聞くだけで, ブーバキキ効果からその音声指す内容を日本語母語話者と同様に選択できるという仮説に基づくものである.

想定する実験では, 日本語の習熟度を調べる予備調査結果に基づき選ばれた日本語オノマトペが理解できない者を対象とする. 参加者は日本語オノマトペの音声を聞き, その音声指す対象を選択する. 日本語オノマトペの音声に対して, 日本語に習熟していない実験対象者にブーバキキ効果(選択確率の偏り)が見られるならば, その音声指す内容は, 日本語母語話者と類似した選択ができると考えられる.

実験に使用する各オノマトペに対し, 日本語母語話者の一貫して選択する指示対象を正解と定義する. こう定義する正解に基づき, 実験対象者が学習によらず, 正解の選択肢を選ぶことができるかを統計的に分析する.

4. 展望

先の実験にて, ブーバキキ効果によって正解を選ぶことができた人を対象に, どのような条件となったときに, ブーバキキ効果は高いのか, あるいは逆に弱まるかを調べ, 効果に相関する要因の特定するための実験を行う予定である. この実験では, オノマトペの種類, 音声特徴などの操作によって特徴

の異なる音声刺激を与える。選択対象は、視覚的、触覚的、嗅覚的、聴覚的なものが考えられるが、対象の設定方法によって、一つのオノマトペ音声の一つの対象のみを指すとは限らないため、オノマトペ音声と選択対象の組み合わせによる効果の違いは検討する必要がある。

参考文献

Ramachandran, V.S. & Hubbard, E.M. (2001) Synaesthesia—A Window Into Perception, Thought and Language. *Journal of Consciousness Studies*, 8, No. 12, pp.3-34

連絡先

住所：〒923-1292 石川県能美市旭台 1-1 北陸先端科学技術大学院大学

名前：宮本真希

E-mail : jaist1810180_miyamoto@jaist.ac.jp